

八戸工業大学 同窓会報

HIT Alumni Association Journal

第30号

2024年
12月発行

八戸工業大学 同窓会事務局 TEL: 0178-25-8027 / FAX: 0178-25-3827 / E-mail: dosokai@hi-tech.ac.jp

トピックス

OB・OGの近況報告

定年退職ごあいさつ 武山 泰 先生

感性デザイン学科20周年パーティ&展示会開催決定

下宿の大家さんにインタビュー! ... 下宿てらさわ・山光荘



支部総会および八戸開催「同窓生の集う会」開催

当日の様子を写真でご紹介いたします。参加できなかった皆様におかれましては、来年、お会いできますことを楽しみにしております。

01 北海道支部 2024/7/27 -札幌-



02 秋田支部 2024/9/28 -秋田-



03 2024/10/19 -八戸- 第23回八戸工業大学 同窓生の集う会



同窓会関連情報はこちら

<https://alumni.hi-tech.ac.jp/>



以下支部の本年度総会は、開催中止となります。

- ・東北支部
- ・関東支部
- ・北海道支部道南会



同窓会会長挨拶



八戸工業大学同窓会 会長

福士 信雄

全国各地でご活躍されている同窓生の皆様、心から敬意を表します。また、同窓会活動に多大なご協力をいただき、誠にありがとうございます。母校である八戸工業大学からも、同窓会活動に対するご理解とご支援をいただいております。深く感謝申し上げます。ウクライナやガザの情勢が続く中、平和の祭典とされるパリオリンピックが開幕し、多くの話題を提供しました。その中で、特に印象的だったのは「若者の活躍」と「女性の活躍」です。

昔から「最近の若者は…」という批判がありましたが、実は古代エジプトの粘土板にも同様の記述が見られるそうです。しかし、私は今の若者が素晴らしいと感じていません。その証拠に、大谷翔平選手を引き合いに出すまでもなく、パリオリンピックでの日本選手団は、金メダル20個を含む45個のメダルを獲得し、海外開催のオリンピックでは過去最多の成果を上げました。金メダル数では米国、中国に次ぐ世界第3位となり、日本の若者たちの活躍が証明されています。

また、第2回パリ大会では初めて女子選手がオリンピックに参加し、その割合は2.2%でしたが、今回の大会では女子選手が約50%を占めるまでに至り、女性の活躍が一層際立ちました。

さて、今年度の同窓会支部活動については、役員不足のために開催が難しい支部も出てきております。10月に予定している「八戸工業大学同窓生の集う会」では、理事や代議員の皆様からの活発なご意見を頂戴し、新たな会場での開催に向けて、ポスターの制作や課題の解決に取り組んでおりますが、支部活動は依然として厳しい状況です。

そこで、今後の同窓会活動をさらに活性化させるために、「若い会員」や「女性会員」の活躍に大いに期待しております。今年度の北海道支部総会には、初めて女性会員が参加し、大変盛り上がりつつあります。また、若い会員の参加を促進するための費用助成も進め、参加率の向上を図っていききたいと考えています。

多くの若いオリンピックや女性オリンピックが、「諦めない心」の大切さを強調しております。同窓会活動においても、この「諦めない心」を大切に、八戸工業大学同窓会の新たな章を共に書き進めていきたいと思っております。

令和6年度理事会・定例代議員会

令和6年6月15日(土)八戸工業大学 番町サテライトキャンパスにて、令和6年度八戸工業大学同窓会第1回理事会及び代議員会が開催されました。構成員3分の2以上の出席をもって本会が成立され、審議事項について過半数の承認を得たことから、議案が成立されたことを報告いたします。

《議案》第1号議案 令和5年度事業報告・決算(案)について

第2号議案 令和6年度事業計画・予算(案)について

第3号議案 第23回八戸工業大学同窓生の集う会について

第4号議案 役員の変更(案)について

第5号議案 同窓会表彰推薦(案)について

第6号議案 八戸工業大学同窓会助成費の運営および八戸工業大学同窓会本部会費・旅費等支給に関する申し合わせ(案)について

《報告》第1号 第2号

各支部・分会の行事について
課外活動表彰における同窓会会長賞の贈呈について

会長・副会長・理事・監事 (氏名 卒業年度 卒業学科名)

会長(水交会)	福士 信雄	昭和51年度	電気
副会長(同窓教職員会の会)	浅利 能之	昭和51年度	電気
副会長(うみねこ会)	小玉 成人	平成7年度	電気
理事(蒼峰会)	尾形 健治	昭和57年度	機械
理事(水交会)	河原木 琢也	平成7年度	電気
理事(土木建築同窓会)	高橋 和雄	昭和55年度	建築
理事(学匠会)	原田 修	昭和60年度	エネルギー
理事(学匠会)	大坂 崇長	平成4年度	エネルギー
理事(うみねこ会)	田村 友宏	平成27年度	システム情報
理事(感性デザイン同窓会)	高屋敷 圭佑	平成25年度	感性デザイン
理事(感性デザイン同窓会)	鳥谷 華恋	平成29年度	感性デザイン
理事(北海道支部)	松平 正幸	昭和62年度	エネルギー
理事(東北支部)	奈良坂 進	昭和50年度	機械
理事(秋田支部)	永井 誠	平成2年度	建築
理事(関東支部)	古館 仁	平成10年度	機械
監事(蒼峰会)	左館 直樹	昭和57年度	機械
監事(土木建築同窓会)	島下 大	平成29年度	土木建築

代議員 (氏名 卒業年度)

蒼峰会			土木建築同窓会			うみねこ会			
和田 論	昭和54年度	三浦 宏之	昭和58年度	大沼 宜浩	平成14年度	西村 俊	昭和54年度	平野 龍輝	平成17年度
松倉 芳彦	昭和60年度	浅利 安田	平成3年度	森越 達樹	平成28年度	夏堀 祐樹	平成20年度	下斗米 一真	平成30年度
上條 博滋	平成23年度	菅原 弘一	平成6年度						
水交会			学匠会			感性デザイン同窓会			
菅野 義明	昭和50年度	大嶋 倫和	昭和61年度	嶋守 涉	平成22年度	梅津 正明	昭和51年度	柳 圭太	平成27年度
阿部 恭也	昭和60年度	掛端 英二	平成2年度	五十嵐 七果	平成22年度	岩本 明佳	昭和57年度	貝塚 彩乃	令和3年度
松村 純一	昭和54年度	三浦 安則	平成3年度						
		河原木 洋	平成9年度						
		濱田 信吾	平成17年度						

学長挨拶

社会の要請に応える大学として邁進



八戸工業大学 学長

坂本 禎智

八戸工業大学の同窓生の皆さまにおかれましては、さまざまな分野・職域・立場でご活躍のことと存じます。本学は一昨年、創立50周年を迎え、「工学×デザイン×地域」の融合による教育と研究の拠点大学として地域の発展のために貢献することを誓い、新たなステップを踏み出しました。

しかし昨今、18歳年齢人口の減少や高校生の都市部への流出などにより、地方私立大学への入学者が全国的に減少し、本学も同様の状況にあります。これから社会の構成員となり、社会を牽引していく学生の確保と育成は大きな課題となっています。本学はいま、これに立ち向かうべく、教育体制・教育内容の更なる充実、学生の満足度の更なる向上を図り、本学の魅力や強みを前面に押し出した広報を実施し、多様な学生を確保するための活動を展開しています。

本学の強みは、①本学にモノづくりの「工学部」とモノの付加価値を創造する「感性デザイン学部」があり、「両学部の横断教育による、現代の高付加価値時代が求めるスキルの教育体制が整っていること、②6年間にわたって実施した「大学教育再生加速プログラム(文科省)」で培った、学修成果の可視化・教育改善体制が整備されていること、③アクティブラーニング・地域連携活動など、課題発見・解決型実践教育が充実していること、④カーボンニュートラル、エネルギー、原子力、海洋工学、ロボット

など地域産業に関わる科学技術を学べること、などが挙げられます。また、これまで評価されてきた、面倒見が良く就職支援が充実している大学であることも強みの一つです。これらを多くの方にご理解いただき、本学に目を向けていただきたいと考えています。さらに、社会の要請に迅速に対応するフットワークの軽さも本学の魅力の一つです。例えば、本学は、女性の活躍促進についての社会的ニーズに対応するため、今年度、「STEM女子推進・支援室」を設置し、理系女子の人材育成や入学を促進する活動を開始しました。この組織の前身は「HITリケジョLABO」であり、JST令和5&6年度「女子高生の理系進路選択支援プログラム」に採択され、先行して関連の活動を実施していました。

また本学は、企業の人出不足の解消、ものづくり産業への人材輩出、地域定住促進に関わる社会的ニーズに対応するため、今年度より、外国人留学生を対象とした産官学連携の「特定技能エンジニアプログラム」も開始しました。「建設」、「自動車整備」、「工業製品製造業分野」の3コースを設け、留学生に6ヶ月間の専門教育を行います。最長5年働ける「特定技能1号」の取得を経て、修了後は就職先の国内企業で、永住可能な在留資格「特定技能2号」取得を目指す仕組みです。前期に8名、後期に11名のミャンマーからの留学生を迎えました。この取組は工業系大学では、先進的な取組と評価されています。

このように本学は、社会の情勢を見極め、時代とニーズに則した様々な活動を展開し、多様な学生の確保に向けて活動しています。これからも本学は、大学の持続的な発展に向けて教育・研究に邁進し、社会貢献を果たしていく所存です。今後とも、皆さまのご支援、並びにご指導ご鞭撻をいただきますようお願いいたします。

HAMS (メールマガジン) 会員登録のご案内

登録手順① 仮登録

普段お使いの携帯電話もしくはパソコンから、下記アドレス宛に空メールを送信します。携帯電話をご利用の場合、QRコードからのアクセスが可能です。

登録手順② 本登録

空メールを送信した携帯電話もしくはパソコンに、自動で返信メールが届きます。返信メールの本文中にあるURLにアクセスすることで本登録が完了します。

hams@alumni.hi-tech.ac.jp



いま・むかし物語

第三話「下宿」

「いま・むかし物語」は50年の歴史を持つ
本学の今と昔を紹介するコーナーです。
第三話は **下宿** に注目！

歴史の長〜い下宿にインタビュー！ 教えて大家さん！

下宿てらさわ 24年間で約250人の工大生がお世話になり、職人気質のノリアキさんが作る料理が昔から評判の下宿
てらさわさん。管理人の世代交代をした今も、下宿生のお世話を続けているフジコさんにお話を伺いました！



卒業生とのつながり

今でも、卒業生の方が会いに来てくれたり、電話をくれたり、結婚式に招待してくれたりもします。この前、地震で階上町がニュースで報道されると、今まで音沙汰がなかった卒業生が心配して電話をくれました。正月に必ず立ち寄ってくれる方もいて、元気な様子やいろんなお話を聞くことが出来てうれしいです。

コロナが流行り始めの時は、アルコール除菌液が品薄で手に入らなくて困りました。その時、たまたま訪ねて来てくれた卒業生が手配してくれました。また、当時の下宿生や卒業生の保護者の方から紹介されましたと、下宿に来てくれる新入生もいて、皆さんに助けられています。



下宿生から頂いた大切な
プレゼントの一部

食堂



卒業生にメッセージ

みんな元気でやっててくれればいい。
✦ 気を遣わないで顔出してくれれば
✦ いっばんうれしい。
✦ その時は、いろんな話をきかせてね。

寺澤 不二子さん
寺澤 憲 昭さん
小黑 孝 彦さん

下宿ホーム
ページ →



むかしの思い出

卒業式の後、学生たちと朝4時まで飲み会をしたこと。学生と学校から下宿まで帰るときに、「近道教えてあげる!」と一緒にフェンスを乗り越えて帰ったこと。

さんこうそう
山光荘

昭和48年に下宿を創業し、約650人の工大生の思い出が詰まっている山光荘さん。50年前と変わらずに
マコトさん、カツヨさんご夫婦で下宿生を受け入れています。Facebook掲載のごはんの写真は必見です！



卒業生とのつながり

下宿生には、たくさん食べて、健康に過ごして大学を卒業してほしいという思いでサポートしています。山光荘では、ハ工大2回生から受け入れています。学生とのたくさんの思い出や、大変だったこともふくめて、やりがいがあり、50年前に下宿をやってよかったと思っています。今では全国に卒業生がいっぱいいます。ハガキやお手紙や電話など、顔を見せに立ち寄ってくれますし、夏には、旅行がてら卒業生に会いに行くこともしていました。予告しないで近く着いたら電話するので、みんな驚きますが、突然の訪問にも歓迎してくれました。



食堂



カラーフィルム
写真たくさん
ありました



看板

むかしの思い出

車でスーパーに行くときは、みんな付いてきて「今日魚がいい!」「おれ肉がいい!」と好きなこと言い合っ
て買い出しをした。何かあったら食堂で会議を行います
が忘れられない会議は、下宿生が野球をして壁に3つ穴を開けた時のこと。学園祭では下宿生が「山田ファミリー」という名前で出店し、打ち上げはみんなでカラオケに行きました。

卒業生にメッセージ

みなさん健康でいてください。
✦ 今の叶えたい夢は、
✦ 下宿生みんなと会うこと。
✦ なので、私たちが会いにいったら、
✦ イヤって言わないでね。

山田 誠 さん
山田 勝代 さん

下宿ホーム
ページ →



下宿OB・OGの皆さま、大家さんは皆さんに会ったり電話や手紙でお便りがくることをとても楽しみにしています。数十年前のこととっても詳しく覚えています。ぜひ元気な様子をご一報いかがでしょうか。大家さんが喜びます
いま・むかし物語に関する感想や当時の下宿の思い出、取り上げてほしいテーマを募集します。右に記載のQR
コード(グーグルフォーム)からお気軽にお寄せください。 編集者が喜びます



蒼峰会

教員メッセージ



工学部 機械工学コース

教授 折田 久幸

2022年4月に本学機械工学コースに着任し、本年2024年、3年目を迎えました。研究では本学で約30年続いている吸収冷凍機の研究を引き継ぎ、教育ではカーボンニュートラルに向けた人材育成プログラムの作成と実行を進めています。

吸収冷凍機の研究は、NEDO 1)「革新的プラスチック資源循環システム技術開発」の委託事業で進めています(2020から2024年度)。200度以下の未利用排熱を活用し、年間を通じてニーズのある水スラリー(シャープベット水)を製造する装置を開発しています。本学の氷点冷熱を製造する吸収冷凍機と、高砂熱学工業(株)、東京電機大学の氷スラリー製造装置を連結させ、熱リサイクルパッケージとして試作品を完成させました。その成果は2024年5月、NEDO様と共同でプレスリリースしました。2)工業地帯から排出される未利用熱を活用し、海産物の輸送するための保冷剤を提供する、八戸港に適した装置であり、現地実証を指しています。

カーボンニュートラル教育は、北東北で育ち、北東北で就職し、生計を立て、その子供が引き継いでいく姿を描き、2050年にカーボンニュートラルの実施者になってもらう若人を育てることを目的としています。カーボンニュートラル社会は、地域に合った多種類のシステム導入と、それらを制御することが必要です。多分野知識を使って新しいシステムを創造する能力を身に付けてもらいたいと思っています。2023年度後期より工大一高、工大二高と高大連携し、講義を開始しました。産官の意見を取り入れ、小中高への展開、さらには社会人のリスキリング教育に拡大させていきます。ご支援、ご指導、よろしくお願ひします。

1) 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
2) https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101748.html

OB・OG 近況報告



久慈広域連合消防本部
久慈消防署普代分署

消防士長 柎谷 祐希

私は工学部機械情報技術学科(現：工学部工学科機械工学コース)を卒業後、地元である洋野町を管轄する久慈広域連合消防本部に採用となりました。久慈広域連合消防本部は岩手県の沿岸北部を管轄する広域消防で、久慈市、洋野町、野田村、普代村の1市1町2村で構成されています。消防職員数は約150名となります。

当消防本部に採用となり今年で12年目を迎えます。現在は救急救命士という救急救命処置を行うことができる資格を取得し、主に救急小隊長として救急車に乗車し出動しています。ひとつの現場を任せられる立場となり、責任が大きくなっていますが非常にやり甲斐を感じています。私が社会人となり特に必要と感じたことは、「人との繋がりを」と振り返ります。大学時代を振り返ると、様々な先生方にお世話になりました。当時学科長であった大黒正敏先生をはじめ、担任であった太田勝先生、硬式野球部に所属し4年間人間力を指導頂いた笹田公烈前監督と数多くの先生方にお世話になりました。当消防本部に採用されてからも、大黒先生と浅川拓克先生をお招きしての研修会を実施していただいています。4年間の人との繋がりと学びが今まさに活かされています。今回のOB・OG近況報告の掲載も卒業してからもお付き合いをして頂いている太田先生からのお誘いです。貴重な経験をさせて頂きましてありがとうございます。

最後になりますが、八戸工業大学から社会という土俵に上がる後輩たちへのアドバイスをあげさせていただきます。採用2日目、私は当時の教育的立場の先輩から「私たちの一つの努力で、一つの命を救うことができる」と、またワクワクとドキドキがまだ止まらない状況で指導され、一気に緊張感に包まれたことを今でも覚えています。私が就いた仕事は「命」に直接携わる仕事で、一つの命を救うために日ごろの努力は欠かすことができません。その時の先輩の一言で今日まで頑張れています。その先輩は今の私の勤務する分署の分署長であり、現場を指揮する指揮官です。みなさんも一生懸命に取り組める仕事を在学中に見つけ、社会で飛躍できるように準備してください。そして八戸工業大学卒というブランドに誇りと自信を持ち、全国各地で飛躍することを心から願っています。共に働ける日を楽しみにしています。職種は違えど、やることは同じです。一生懸命頑張りますよ！



水交会

水交会活動報告

令和5年度「水交会賞」授与式

令和6年3月19日(火)及び同年4月8日(水)に八戸工業大学にて令和5年度「水交会賞」表彰式を行いました。水交会賞は、学業成績が特に優れている学生や課外活動において特に優秀な成績をおさめた学生を表彰するものであり、水交会在学生応援事業として平成28年度総会にて承認された制度です。令和5年度は8名の学生が表彰され、受賞内容は次の通りです。

表彰者 8名



学業成績表彰者 令和5年度の電気電子工学科及び電気電子通信工学コースにおいて、当該学年で主席(GPA)の成績を修めた。

硬式野球部 2名 3年秋季から4年秋季リーグまで副主将を務めチームをまとめた他、2023年北東北大学野球秋季二部リーグ戦では優秀選手賞とベストナインを受賞。2023年北東北大学野球春季二部リーグ戦において優秀選手賞を受賞。

バレーボール部 1名 令和5年度国体に出場した他、同部活内でも活躍。

卓球部 1名 令和5年度東北学生卓球連盟春季リーグ戦で第2位(インカレの出場権獲得)となった他、第89回全日本大学総合卓球選手権大会男子シングルスに出場。

皆さんのより一層のご活躍を期待しております。

令和6年度水交会総会開催

令和6年10月19日(土)「令和6年度水交会総会」が開催されました。始めに令和5年度収支決算報告及び事業報告があり、令和5年度収支予算案及び事業計画案等について審議した結果、異議なく了承されました。



同窓生としての抱負

小軽米 世那さん(佐々木研究室)
令和7年3月電気電子工学科卒

就職先 東京電力ホールディングス(株)



トや就職活動などを通して、社会経験や多様な価値観に触れ、様々な面で自己成長できたと感じています。

八戸工業大学での4年間は、自分の中の視野や価値観を大きく広げられることができた時間でした。学業においては、電気電子工学分野を基礎から応用まで学ぶ中で、自分の興味関心のあることを見つめ直し、自分が本当にやりたいことを決めることが出来ました。また、アルバイト

卒業研究では佐々木研究室に所属し、枯れのための枯死木検出法の他樹種への応用について研究を行いました。実際に地域の抱える課題を題材に、その解決策を検討することで、問題解決力を高めることができ、研究成果を学会などの場で発表するなどの貴重な機会にも恵まれ、プレゼン能力が鍛えられました。卒業後は、大学時代の様々な経験を活かしながら、周囲から信頼される人になることを目標に、精一杯取り組んでいきます。

同窓教員の活躍

八戸工業大学 番町サテライト
キャンパス「ばんらぼ」館長
関 秀廣



(株)田名部組が連携運営する「ばんらぼ」である。小生は2023年3月に八戸工業大学を退職した後、6月から公益財団法人八戸地域高度技術振興センターの任意の共益事業である「高度技術利用研究会」にて会長を務め、地域の産学官の連携を促進し、高度技術の地域産業への活用を図るべく微力ながら努めている。また、2024年3月

「ばんらぼ」じゃないよ「ばんらぼ」だよ!

八戸市の下真中、八戸市庁・八戸市美術館が立ち並ぶ一角、番町交差点で目の前のビルの案内板を見ながら「ばんらぼさんじゃないの?」といったやり取りをしている家族連れに出くわした。それが八戸工業大学と「ばんらぼ」である。八戸工業大学では地域の活性化や地域産業の振興、人材育成の拠点を中心市街地に設けるべく地域との接点を求めていた。一方、建築を手掛ける(株)田名部組では町の活性化を図るべく子供等の溜まり場作りを検討していた。八戸工業大学創立50周年を契機に拠点作りの合意を得、2022年4月に「ばんらぼ」が開館した。「ばんらぼ」は地名の番町と地域連携のあり方を求める研究(ラボラトリー)を組み合わせた名称である。向かいには八戸市美術館があり、市民が集う広場が整備されるなど、拠点としてのロケーションが非常に良く、産学官点で連携しながら中心市街地の活性化、地域産業振興、人材育成の拠点となるべく有効利用が図られている。毎月、双方のメンバーからなる運営協議会が開催され、産学双方の立場でばんらぼの運営はもとより、学生の社会教育の在り方について具体的な意見交換を行なっている。館内は239平方メートルの面積を有し、目的に応じて使い分けられる4つのスペースが設けられている。いずれも格安で貸し出しが行われ、イベントが無い時間帯は無料で市民の休憩や待ち合わせ、自習スペース、情報公開スペースとして開放されている。また、具体的な管理は社会連携・研究推進部が担っている。実際の活動実績を紹介する。7月30日から8月4日までの八戸三社大祭で

「ばんらぼ涼房フェス」と銘打って開放し、八戸工大生らがキャンパスで採れたカブトムシを販売するなどのイベントを実施し、1200名の入館者を数える盛況ぶりであった。4月には八戸青年会議所による第6回わんぱく相撲女子全国大会誘致活動審査会がリモートで実施され、見事、候補地に選ばれた。本学本波洋先生や井上貫之先生によるロボット作製、八戸市こどもIT部などのイベントが続いており、学生や高校生による美術展示も盛んである。研究分野では、日本菌学会マチナカ公開講座、日本音響学会の会場としても利用されている。さらに本学同窓会の理事会・定例代議員会も開催されるなど、中心街という他には替え難い利便性のもと活発に利用されている。

本学では、地域の大学として産学官金連携事業を展開してきた。教育研究に加え、今後市民の方々へ身近な、親しみ易さを伝え、絆を深めて我が町の大学というプレゼンスを高めるための試みを継続することは肝要である。大学キャンパスは八戸市の中心部から凡そ8km程離れていることから、足を踏み入れる機会はどうしても少なくなると思う。「ばんらぼ」は街と大学の隔たりを、一気に縮める存在として可能性を有しており、わざわざ出向かなくても街中で大学へ触れられる機会を生み出すサイトとしての機能を高められればと思っている。地域で活躍する2万名を越える卒業生修了生を輩出し、北東北を中心とした研究拠点として務めてきた八戸工業大学の様々な側面を少しでも感じてもらえればと願う次第である。

詳しくはQRコードからアクセス



土木建築同窓会

同窓会主催 講演会開催

『現代の名工・作庭師久保 義信氏講演会』



土木建築工学科同窓会事業として専門分野を学ぶ後輩諸氏に「各分野の第一線で活躍する方の話を」と浅利壽信が立案し講師交渉を進め、高橋和雄、安田勝寿が準備にあたり、令和6年6月6日大学講義室を会場に開催しました。

久保氏は伝統的構成を基調としながらも創造性に富む日本庭園を作り、現在も全国各地で精力的に活動されており、平成29年度厚生労働省卓越した技能者「現代の名工」を受賞した現代日本を代表する庭師です。講演では「京都庭園美の世界」をテーマに体験談や作庭にかける思いについて、現在普及に尽力している庭園装置「水琴窟」の構造や魅力、タスマニア島で制作指導した経験を振り返りながら、「水琴窟を世界に広めていきたい」とお話しされました。学生に向け「豊かな感性があるからこそ、一本の植木や一個の石からでも美しい庭を造ることができる」「ものづくりは感性が大事。大学生活で多くの人と接し、感性を磨いてほしい」と呼びかけていただきました。

開催にあたっては、教職員の皆様のご理解により、大学キャリアアデヴァイン教育と関連付けていただき、大学HPへの掲示等により参加呼びかけができ、建築・土木工学コース2年生の皆さん、教職員、一般参加者等約50名の皆様にご参加いただきました。

今回の事業は、長年土木建築工学科同窓会として温めていた企画を具体化したもので、色々な面で反省点がありますが、開催出来たがゆえの財産と考えます。今後も同窓会事業について同窓会HP等でお知らせしますので、同窓生の皆様のご参加をお待ちしています。

定年退職のごあいさつ



名誉教授

武山 泰 先生

(令和6年3月31日退職)

平成16(2004)年から、調度20年間、お世話になりましたが、昨年度をもちまして、定年というところで退職しました。退職後は仙台で悠々自適の生活を送っています。とは言っても、建築・土木工学コースの「道路・交通工学」と、システム情報工学コース「ズリサーチ」については、引き続き非常勤講師として担当集中講義については、すでに終了したところですが、この他にも、青森県と八戸市の委員会で行くつか継続して委員を務めており、八戸の方にはたびたび行かせていただいています。

仙台での生活ですが、家では、夕飯の炊事と、掃除を主に担当して、ほぼ毎日のように、買い物に出掛けるは、街を徘徊しています。なかなか1万歩とはいきませんが、なるべく動くようには心がけていました。また、95歳になった母が、まだそれほどボケずに健在で近くのマンションで一人暮らしをしていますので、たびたび顔を出すようにしているのと、週一程度の頻度で、夕飯の調理に行っています。

最近、65〜69歳の高齢者の半数以上が就業しているとの報道があり、何かした方がいいのかとも考えたりしていました。また動き出せませんでした。

在職していた20年の間にも、大学を取り巻く状況には、大きな動きがあり、これからも大きな変革があると思えますが、八戸工業大学の益々のご活躍を祈念しております。



学匠会

OB・OG近況報告

平成3年3月エネルギー工学科卒業

江口 則地



私は、旧エネルギー工学科(エネ科)を卒業した江口と申します。青森県青森市在住で、富士通株式会社にて勤務しております。職種はシステムエンジニア(SE)です。八工大に入学しエネ科で学ぶも将来原子力関連に進むことは考えてはおりません。

まず、大学で学んだ知識が生かせるのか何のためか学んでいるのか迷いや不安もありました。大学の授業やレポート作成などでパソコンに触れる機会があり、「これからはコンピュータが必須だ」と認識し、現在の職につきましました。

富士通入社当時、エネ科卒だったこともあって茨城県東海村にあった旧日本原子力研究所(原研)に就任してまいりました。原研では当時最先端のインターネットを導入し、職員は世界各国の研究者と電子メール等によるコミュニケーションが行えるよう、インターネット接続システムの運用サポートも業務の1つでした。

原研での出向が満了し青森に帰社。当時の上司から「これから何をやる?」と尋ねられ、原研で経験した「インターネットを使用したシステムを作っていくたいです。」と進言し、地方で商業インターネットサービスプロバイダー事業(ISP)を立ち上げることとなりました。

その後時は流れ、次なる事業戦略会議にて自社の柱をどう考えるかに対し「これからは、セキュリティとネットワークおよびシステム運用を一体提供するに価値が生まれる」と考え会社に提言、その後インターネットデータセンター(IDC)を

事業展開することとなります。iDCを構築・運用するうえで大きな課題は熱でした。コンピュータは電気でも動くため、使用された電力はほぼ熱として放出されます。コンピュータを動かすのに電力が必要で、生み出された熱を冷やすのにまた電力が必要で、

次なる課題は、建屋床の耐荷重です。サーバを20台ラック棚に乗せた場合、その重量は1平方メートルあたり約3000~5000kgを軽く超えます。荷重計算を怠ると、建屋が損傷する恐れがあります。

電気も一般家庭ではせいぜい60Aのブレーカーで足りるでしょうが、iDCでは桁が違います。停電に備え非常用発電機も必要です。

iDC設計にはコンピュータ知識だけではなく、物理、電気、建築等一見コンピュータと関係ないような総合知識が必要でした。「あれ? そういえば大学で学んだよな。」エネ科では機械図面制作や流体解析、熱の問題、電気や建築等幅広い知識を学んだことを思い出してみると、「全て覚えて

いるわけではないけれど、なんか経験したな!」と考えるだけでゼロスタートでは無く、気も楽になりプロジェクトを進めやすくなりました。様々な単位を知っているだけで電気や建築、空調等の設備業者とコミュニケーションが円滑に進むと同時に、相手も「この人知っている人だ」と信頼関係も生まれ、突っ込んだ議論や新しい技術に挑戦することもできました。

先の熱問題に対し私たちが出した結論は、1つは空調機の熱交換に「水」を使うということです。水は効率が良い反面、当時はサーバルームに水を引くことは懸念されていました。今では水冷式は当たり前となつていきますので、先見の目があったということ。

もう一つは、青森という冷涼な環境を生かし外気を取り込みサーバルームを冷やす仕組みを導入し、空調の年間消費電力を大幅削減。これも当時としては画期的な仕組みでした。

私のSEとしての30年あまりの経歴のように、学生時代に学んだことや経験が仕事で生かされるケースがどれほどあるかわかりませんが、私の場合学生時代の知識や経験および考え方は、振り返ればとても大きな財産になったと感じています。

これから現役として働ける時間も少ないでしょうが、現役を退いた後も別の形で知識や経験を生かせれば幸いです。

平成30年3月バイオ環境工学科卒業

佐藤 宏紀



同窓会報誌に寄稿させていただくことになりました、バイオ環境工学科卒業生の佐藤です。近況報告ということで自分が勤めている会社や自身の近況を報告させていただきます。

私は二〇一八年に卒業後、東京パワーテクノロジー株式会社という会社に入社しました。入社後は福島原子力事業所の配属になり、放射線計測器や発電所内の気象観測装置の点検を二年間行っていました。三年目からは青森に転勤になり主に電気に関わる工事の施工管理を担当しています。

福島でこれまでやってきた業務内容と違うため慣れるまで大変でした。また、電気の分野についてはこれまでほとんど触れてこなかったのが知識も全くなく業務を進めるうえでわからないことが多すぎて苦労しました。三年目、四年目、五年目は特に忙しい業務をこなすことで精一杯で悩み事不安事が尽きない日々でしたが、振り返ってみるととてもいい経験ができたなと思います。今年で入社七年目となり、与えられる業務内容も難しく大変ではありますが、「あの時を乗り越えられたから今回も出来る」と自分に言い聞かせて仕事に励んでいます。最近では少し落ち着いたので資格取得のための勉強に取り組んでいます。まだまだ先輩方には追い付けないので今以上に努力し多くの知識を身に付け経験をさらに積んでいきたいと考えています。

自分自身のことについては、現在結婚する予定はまだなく一人暮らしを満喫しています。休みの日には車で他県に遠出したり会社の人とランニングやテニスをしたりと充実した日々をすごしています。ランニングについては福島で始めた趣味でしたが、青森に来てからはお休みしてしまいましたが、再開したきっかけは運動不足解消のためということと、会社でリレーマラソンの大会に参加するのでその練習ということで今年の夏頃からまた走り始めました。久しぶりに走ったので初めの頃はあまり走れなかったのですが、回数を重ねるうちに長い距離を走れるようになりました。タイムも徐々に速くなり練習した結果が目に見えてわかりとても楽しかったので今後とも続けていきたいと思っています。また、長期休みの時には大学の友人と会ってお酒を飲みながらお互いの近況を報告しあっています。会える回数も年に数えるくらいしかないのですが、誘ってくれる友人に感謝しながら一回一回を大事にしていきたいなと思います。以上、近況報告となります。

末筆ながら、八戸工業大学の益々の発展および皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

株式会社ザックス
<https://www.zax.co.jp>

理化学機器、放射線関連製品、試験、エアフィルター、計量証明、化学工場及び研究施設の運転・保守、等

八戸営業所 八戸市長根4丁目17-7
tel:0178-73-3620 fax:0178-73-3621

事業所:東通(本社)、六ヶ所、大間、八戸弘前、青森、北海道

(株)アムテックス・安全自動車(株)・(株)イヤサカ
指定サービス工場
自動車整備用機械工具及び検査機器 修理・保守
一般社団法人 日本自動車機械工具協会
車検機器点検資格・リフト点検資格 認定

藤澤こうぐ店

代表 藤澤 崇司
(平成8年度 エネルギー工学科卒)
〒041-1111 北海道亀田郡七飯町本町5丁目19-19
TEL/FAX 0138-83-1285

うみねこ会

学科ニュース

2024年2月9日

武山 泰先生 最終講義



平成16(2004)年から、調度20年間、お世話になりましたが、昨年度をもちまして、定年ということで退職しました。退職後は仙台で悠々自適の生活を送っています。7月には名誉教授の称号を授与いただき、お世話になった方々には深く御礼申し上げます。とは言っても、建築・土木工学コースの「道路・交通工学」と、システム情報工学コースの「オペレーティングシステム」については、引き続き非常勤講師として担当しており、今年度の集中講義については、すでに終了したところです。

システム情報工学コースでは、今年度から、新入生にはプログラミング言語としてPythonを教えるとのことで、私もPythonを学び直し、講義に関連したプログラムを移植しているところでした。あと、iPhoneアプリ開発についても、学び直しているところでした。

私が勤めていた20年の間には、大学を取り巻く状況が大きく変動し、大学内でも、いくつかの変革がありました。今後、大学を取り巻く状況はますます厳しくなり、また大きな変革の時期を迎えることかと存じますが、八戸工業大学の引き続いてのご活躍を祈念しております。

OB・OG近況報告



伊保内 孝吏

令和4年度卒業生
現・八戸工業大学大学院

大学院に進学してから、一年半が過ぎました。学部時代からデジタル信号処理研究室に所属しています。私の研究ではデジタルフィルタを利用して音声認識システムの精度向上に取り組んでいます。課題も多いですが、研究室のメンバーや指導教員の先生のサポートを受けながら、頑張っています。

学部時代は、アルバイトに明け暮れ、学校よりもアルバイトに力を入れていました。そのため、あまり学校の活動に関わることがありませんでした。大学院に入ってから学校行事などに参加してみても、改めて学校の楽しさを感じる事が出来ませんでした。残すところ半年となりましたが、最後の学生生活を楽しみたいと思います。

8号館の環境整備

8号館(旧:システム情報工学専門棟)では、ここ数年かけて、講義室や入り口のスロープ、トイレ(1階~3階)などの改修を行ってきた。8号館2階にある8-202(旧:I202)、8-203(旧:I203)、8-208(旧:I208)などの講義室では、ノートパソコンの必携化に対応するため、机とイスをパソコンが広げやすいようにスペースを確保し、一部屋に複数台のアクセスポイントを設置してテーブルタップも各机に設置するなどノートパソコンを活用しやすい環境を整えた。また、2階の入り口は段差があり、これまでは介助無しでの車椅子の移動ができず、台車等を用いた機材の運搬も難しかったが、緩やかなスロープを設けて車椅子が介助無しでも移動でき、台車の利用もスムーズになった。さらに、1階~3階のトイレも改修し、和式だったり、照明が少なかったりした問題を解消している。なお、2階のトイレには、車椅子用のトイレも完備して、車椅子を利用する学生にも対応できるようにしている。



Office Optimization

オフィス・オフィスマイゼーション/オフィスの最適化
貴社の業務の本質を捉え、
オフィスの最適なカタチを提案するのが仕事です。

株式会社 金入



〒039-1121
青森県八戸市卸センター二丁目4-12
TEL 0178-28-2871 / FAX 0178-20-2764
<http://www.kaneiri.co.jp>

感性デザイン同窓会

感性デザイン同窓会活動

感性デザイン同窓会総会を

実施しました！

長らく行っていなかった同窓会総会ですが、去る7月30日にオンラインにて実施いたしました。コロナ禍の影響もあり今回の総会では同窓会規約の改定および新同窓会役員を決定いたしました。同窓会会長は長らく会長を努めていただきました、石橋 宣貴さん(1期)に変わり高屋敷 圭佑さん(6期)が就任されました。ほか、新しい役員は次の通りです。

感性デザイン同窓会役員

※()内は期

会長	高屋敷 圭佑 (6)			
副会長	鳥谷部 華恋 (10)			
幹事	嶋 守 涉 (3)	柳 零 圭太 (3)		
会計	五十嵐 七果 (8)	宮腰 直幸 (特)		
監査	貝 塚 彩乃 (14)	高橋 史朗 (特)		
顧問	石 橋 宣貴 (1)	住吉 貴恵 (2)		

今後、新体制で、同窓会の運営を進めてまいりますので、皆様のご協力よろしくお願いいたします。

新会長あいさつ



感性デザイン同窓会
会長
高屋敷 圭佑

この度、同窓会長に就任いたしました高屋敷 圭佑です。2014年卒業の6期生であり、早や10年が経ちました。永きにわたり同窓会を支えてこられました石橋前会長の後を引き継ぎ、微力ながら同窓会運営に尽力していきたいと思っております。

さて、感性デザイン学科も創立20周年を迎えようとしています。卒業生は300名を超え、各方面でご活躍のことと存じます。本学科同窓会は、大学の中でも最も新しい同窓会の一つであり、これまで活発な活動とは言い難い状況でした。この節目の年にあたり、同窓会活動をより一層活性化させ、卒業生の皆様により一層繋がりの深いコミュニケーションを築ける場になるようにと考えています。

同窓会は、学生時代に築いた大切な友人や恩師との絆を深める貴重な場です。社会に出て、新しい人間関係を築くことは容易ではありませんが、学生時代の思い出を共有する仲間たちとの交流は他に代えがたい時間になると思っています。同窓会活動を通じて、新たな出会いや繋がりを生み出し、会員の皆様の更なる発展に貢献できれば幸いです。

最後に、石橋前会長の多大なるご尽力に心から感謝申し上げます。そして、新たな同窓会の歴史を皆様とともに築いていきたいと存じます。今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

感性デザイン学部
Webサイト



感性デザイン学科は20年を迎えます

感性デザイン学部は、2025年4月に二十歳の誕生日を迎えます。そこで、2025年2月22日(土) 17:00~19:00 (予定)に、八戸グランドホテルを会場として『Kansei Design 20th Anniversary Celebration (KD20)』を開催することとなりました。

卒業生のみなさんにぜひご参加いただきたいと考えております。卒業生、在校生、現・元教職員が学科の来し方を楽しくとともに、未来へ思いをつなぐパーティーです。

当日は多くの教職員や友人、先輩や後輩と思い出を語り、旧交を温めましょう。大学では交流がなかった世代も参加しますから、今の自分にとってプラスになる出会いもあるかもしれませんよ。

これら20周年イベントの詳細は感性デザイン学部のWebサイトに掲載してまいります。多数の皆様のご来場をお待ちしております！

令和5年度(2023年度) 事業報告・収支決済報告

2023(令和5)年4月1日～2024(令和6)年3月31日

事業報告

《本部》

月日	事業内容
令和5年6月24日(土)	第1回理事会・定例代議員会
令和5年9月1日(金)	同窓会便覧発行
令和5年10月21日(土)	第22回同窓生の集う会 ～八戸工業大50th+1 Anniversary地域と共に～
令和5年12月4日(月)	工大グループ同窓会連絡協議会
令和5年12月	同窓会報発行
令和6年3月19日(火)	学位記授与式
	第2回理事会・定例代議員会

《支部》

月日	事業内容
令和5年5月24日(水)	秋田支部役員会
令和5年7月8日(土)	北海道支部総会(札幌)
令和5年9月9日(土)	関東支部総会(東京)
令和5年9月23日(土)	北海道支部道南部会(函館)
令和5年9月30日(土)	秋田支部総会
令和5年11月11日(土)	東北支部総会(仙台)

《分会》

月日	事業内容
令和5年4月12日(水)	水交会賞表彰式
令和5年6月10日(土)	うみねこ会第1回役員会
令和5年7月8日(土)	蒼峰会第1回定期役員会
令和5年8月26日(土)	水交会第1回役員会
令和5年9月20日(水)	教育機材寄贈(水交会)
令和5年10月7日(土)	うみねこ会総会
令和5年12月5日(火)	学生との懇談会(蒼峰会)
令和6年1月9日(火)	感性デザイン同窓会幹事会
令和6年1月17日(水)	うみねこ会第2回役員会
令和6年3月19日(火)	各分会より手交式へ派遣

決算報告

《収入の部》

(単位:円)

項目	本年度予算額	決算額	増減
会費	5,000,000	5,140,000	140,000
会報協力費	500,000	636,320	136,320
広告収入	120,000	60,000	▲ 60,000
雑収入	1,716	487	▲ 1,229
収入合計	5,621,716	5,836,807	215,091
活動費(前年度より)	15,973,350	15,973,350	0
総計	21,595,066	21,810,157	430,182

《支出の部》

(単位:円)

項目	本年度予算額	決算額	増減
会議費	200,000	273,000	▲ 73,000
旅費交通費	1,000,000	923,120	76,880
集う会経費	300,000	445,537	▲ 145,537
印刷費	2,700,000	2,553,648	146,352
通信費	50,000	26,426	23,574
支部助成費	1,350,000	886,060	463,940
運営費	30,000	880	29,120
分会助成費	1,200,000	581,589	618,411
業務委託費	66,000	66,550	▲ 550
積立金	0	0	0
慶弔費関係	60,000	3,960	56,040
卒業記念品	289,300	335,225	▲ 45,925
会則3・4条関連事業費	100,000	20,000	80,000
予備費	4,700	0	4,700
支出合計	7,350,000	6,115,995	1,234,005
次年度活動費	14,245,066	15,694,162	▲ 1,449,096
総計	21,595,066	21,810,157	1,234,005

次年度繰越金

収入総計(決算額)－支出合計(決算額) = 15,694,162円

《特別会計》

(単位:円)

項目	本年度予算額	決算額	増減
当期積立金	0	0	0
次年度繰越金	10,000,000	10,000,000	0
計	10,000,000	10,000,000	0

広告掲載 のお願い

同窓会では、「同窓生の集う会」開催など各事業を行っております。年に一度発行する同窓会報もその事業の一環であり、本会の活動内容や大学の近況等を発信するメディアとして、毎年多くの同窓生にご愛読されています。一方で、会報発行に掛かる経費(印刷および発送費)は同窓生数の増加とともに増え続けています。そこで、会報発行に掛かる経費を広告収入より充当したく存じます。つきましては、経費ご多端の折とは存じますが、同窓会報の永続的な発行のため、皆様より広告掲載のほど、よろしくごお願い申し上げます。

- 発行時期:令和7年12月予定(同窓会報第31号)
- 発行部数:約13,500部(予定)
- 広告規格及び、金額(フルカラー) 広告1枠(6cm×4cm)¥10,000 ※他サイズはご相談ください
- 申込期限:令和7年9月30日

同窓会事務局の連絡先

本部事務局（教育・学生支援部 教務・学生支援チーム）
TEL:0178-25-8027 メールアドレス:dosokai@hi-tech.ac.jp

機械工学科・産業機械工学科・機械情報技術学科
TEL：0178-25-8010 メールアドレス:dosokai-m@hi-tech.ac.jp

電気工学科・電気電子工学科・電子知能システム学科・電気電子システム学科
TEL：0178-25-8020 メールアドレス:dosokai-e@hi-tech.ac.jp

土木工学科・環境建設工学科・環境建築工学科・建築工学科・土木建築工学科
TEL：0178-25-8030 メールアドレス:dosokai-d@hi-tech.ac.jp

エネルギー工学科・生物環境工学科・バイオ環境工学科・生命環境科学科
TEL：0178-25-8050 メールアドレス:dosokai-p@hi-tech.ac.jp

システム情報工学科
TEL：0178-25-8080 メールアドレス:dosokai-i@hi-tech.ac.jp

感性デザイン学科・創生デザイン学科
TEL：0178-25-8070 メールアドレス:dosokai-k@hi-tech.ac.jp

同窓会事務局から

●同窓生の皆様へ
同窓会報があたりらしい住所に届かない、住所変更後送付先を変えてほしい等につきましては、左記の同窓会本部事務局まで、電話またはメール（氏名、現住所、学籍番号または、卒業年度と学科）をご連絡いただきますようお願いいたします。

●ご家族の方へ
本誌同窓会報をご家族の方が見て同窓生本人が見ていないことがあるようです。お手数ですが、ご子女に了承いただき同封物の表面にご子女の現住所等必要事項をご記入のうえ、フリーFAXにてご送付ください。

1992(平成4)年3月に同窓会報第1号(創刊号)を発行し号を重ね、今回も約13,500名の会員にお届けすることが出来ました。会報を通して、新たな会員相互の親交が生まれたというお話を伺いますとき、発行継続が同窓会の本来の目的に叶っていくものと考えております。今後、会報の発行を維持していくための費用として、皆様には協賛金のお願いをさせていただいております。協賛いただいた方におかれましては、お名前を大学ホームページに掲載させていただきます。掲載をご希望されない方は、恐れ入りますが同窓会事務局までご連絡ください。次号も皆様からのご意見を耳を傾け、魅力ある紙面づくりを取組んでまいります。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

協賛金の
お願い



協賛金芳名簿は大学ホームページに掲載しております

同封物の見方

- 1 あなたの整理番号です。
- 2 協賛金の振込用紙です。コンビニ・郵便局でご利用できます。
- 3 2口以上ご寄付いただける方は、こちらの振込用紙をご利用ください。
- 4 住所などご変更のある方はいずれかをご利用ください。

- ① ネット支払い用QRコード
- ② フリーFAX
- ③ フリーダイヤル

ご協力のほどよろしくお願いたします。

アプリ決済ご利用できます

Rakuten
楽天銀行

PayB

ゆうちょPay

Jcoin

お問い合わせ

フリーダイヤル 0120-10-9899 (内線92)
平日 10:00~17:00

フリーFAX 0120-10-9184(24時間受付)

1 整理番号 92-35001001

2 払込取扱票 通常払込料金 加入者負担

3 払込取扱票 通常払込料金 加入者負担

4 ①ネット支払用 QRコード

②コンビニ郵便局用

③郵便局専用

払込票兼受領証

払込票兼受領証

①ネット支払用

②コンビニ郵便局用

③郵便局専用